

それで僕達は又三ノ宮までの切符を買つて、神戸から船に乗る事にした。

『俺は癩病の患者でも舐めてなほしてやる』

巡査も傍に居た、汽車の中で僕が斯う言つた時、丁度春中合せに癩病患者が居たと、野田が言つた。

元町通りを歩いて、同じ様に宣傳してから聲が涸れて、甚く疲れたので、待合所の傍で、親子井を二つ食つて舟に乗つた。

姉が場席をとつて待つてゐた。

五六百噸の宿毛通ひだ。

○時半の出帆で、あすの晩まで掛かる。

難航を恐れながら僕は、

波浪不能没、或在須彌峰と観音經を誦しつゝ、つまらない氣分で、瓦煎餅を嚙ちつたり、菓を吸かしたりした。

日が暮れて四國の高松に着いて、伊豫の高濱へ着いたのは朝だつた。